



表紙絵は「やまと国際フレンドクラブ」主催の
やまと国際アートフェスタ入賞作品を掲載しています。

今回のテーマは “笑顔のために”

(株)浜屋百貨店賞 受賞

金井 玖雨 さん(ナイジェリア)
緑野小学校 6年

題名 「笑顔をありがとう」
メッセージ：一人一人の力があわされば、
みんなを笑顔にできる。

「やまと国際アートフェスタ」は
「やまと国際フレンドクラブ」(IFC) *の主催で
毎年催されています。

*草の根の国際交流、外国人支援を行いながら
「ともにくらすまち 大和」を考えるボランティアグループです。

「カッコーフェスタ」'21

～登録団体 活動紹介動画(各2分)～
ベテルギウス玄関で羽ばたきます♪

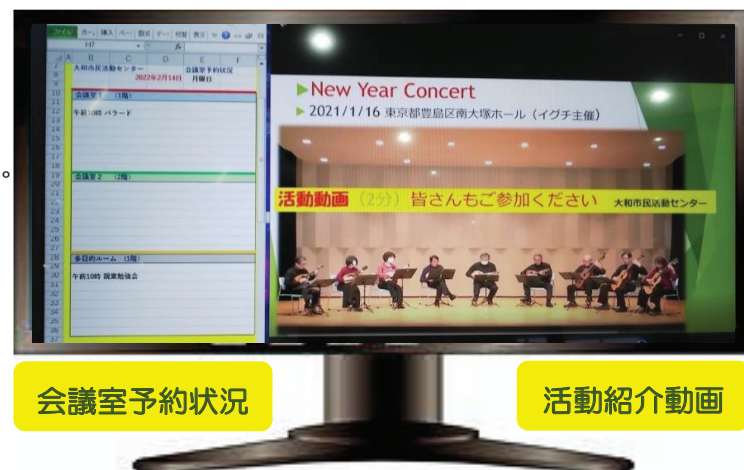
ホームページ公開：2022年3月1日～

3/1以降は団体紹介動画受取り分から随時公開いたします。
自主作成/センターと相談しながらの作成、どちらも可。



WEB カッコーフェスタ'21で
団体紹介をしませんか？

参加方法についてはセンターにお問い合わせください。



会議室予約状況

活動紹介動画

大和市民活動センターから展示コーナーのご紹介

団体・個人の活動を紹介することで みなさんの活動の成果を見て・聞いて・知ってもらいましょう！



皆さんからの感想 (掲示わきの“ふせん”より)

- すてき～こんな絵が描けたらな～こんな切り絵が作れたらな～
- すばらしい力作ぞろいですね。また作りにいきたいな～
- 夢列車に乗ってどこに行こうかな。まだまだ世界が広がります。
- 全て見事です。不器用なのでみるだけですが楽しませていただきました。

- WAO!!
- 北海道の列車は実在しますか？

2/16～3/2 「切り絵の友」

3月の展示 令和3年度協働事業パネル展(3/8～15)

展示コーナーの利用については
大和市民活動センターにお問合せ下さい。

TSUBASA's トーク 第5回「ボランティア活動を伝える写真を目指して」

① ボランティアでの活動を、写真を通じて伝えたい

大学卒業後の来月から私は、今後の自分の生き方について時間をかけて考えてみたいという思いから、岩手県南部の一関市に1年間のボランティアに行きます。そこでは現地の人たちとの暮らしを楽しみつつ、農作業や伝統の継承、スポーツの普及などに携わる予定です。また「風の人」として、土地の魅力に気付き、気づいたことを現地の人たちや、情報が必要とする人たちに伝えていきたいと思っています。

そこで、現地での活動を、写真も使い伝えていこうと思い、一眼レフを購入しました。スマホのカメラではうまく撮れない夜の風景や、遠くの野鳥などが撮れるようになるので、いろいろな角度からその土地について観察ができるようになると思います。



泉の森で撮ったメジロ

② 雪景色の撮影 普段の生活の小さな変化に気づく

ボランティア先の岩手県は宮沢賢治の出身地であり、彼の作品は現地の自然環境からも影響を受けたと聞きます。そうした風景を撮影できることも楽しみに感じています。

そこで撮影の練習のため、2月に雪の降った翌日、朝7:30から学校に行ったことがありました。踏み跡のついていない

雪景色を撮ろうと張り切って、卒業研究の発表会の前日に撮影に行きましたが、残念ながら足跡や雪だるまが多くありました。構内の寮に住む学生が夜通し遊んでいたのかもしれませんが、さすがに雪が溶けてしまう前に、作られた雪だるまや、水滴のついた梅の花を撮れたのは嬉しかったです。

振り返ってみると、カメラが手元にあることで、小さな変化も目に留まり、いつものように通う学校にも、楽しみを見出していたことに気がきました。

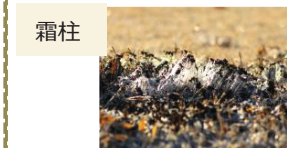
校舎前の雪だるま

梅の花

③ 後戻りできない撮影 ボランティアに向けて

撮った写真を見直し、「もっと構図をこうしておけば、よく伝わるのに、面白いのに。」と後悔してしまうこともあります。後戻りできない点も写真を撮る面白さだと思っています。

写真に詳しいセンターのスタッフから、私の写真について、「もっと色々な角度から撮ってみるといいかもしれない」とアドバイスをもらったので、普段見ない角度からもボランティア活動の記録を残していきたいと思います。(サポーター 尾畑翼)



霜柱

大和市民活動センターは「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置されています。

「あの手 この手」 第176号 発行日：2022年3月10日

大和市民活動センター <開館日 月～土 9:00～18:00>
<休館日 12月29日～1月3日・毎月第3月曜日>
〒242-0018 大和市深見西1-2-17

発行：大和市民活動センター 拠点やまと

TEL:046-260-2586 FAX:046-205-5788
e-mail:yamato@ar.wakwak.com
http://www.kyoudounokiyoten.com/

第98回 共育セミナー ウィズコロナ、ポストコロナ時代の社会貢献活動 その2 街場にアートを、音楽を。地域資源と人を活かす

開催 報告

今回報告する共育セミナーは、オミクロン株の拡大により、まん延防止等重点措置が適用されている中、現場の方の声を伺うシリーズの2回目です。

現状では芸術、音楽、アートが不要不急とも言われて、大変な思いをされた方も多いと思いますし、公の支援がないと活動が継続できないといった方々も多くいらっしゃると思います。

このような中、大田区で、大変熱い想いで、お父さまから受け継いだ居場所的な空間で、広くアート活動を展開、場の提供をされている**水口（みなくち）恵子さん（ギャラリー南製作所）**、マンドリンが趣味で、人との出会い・つながりから生まれた音楽活動を展開している**望月則男（大和市民活動センター）**、市民活動・NPO活動を支援する立場から**小山紳一郎（しんいちろう）さん（大和市協働推進会議委員）**の3名にスピーカーとしておいていただいて、開催いたしました。

その様子を、サポーターの石川美恵子さんが報告いたします。

**アートは、不要不急ではなく、
社会と切り離せない存在であり、
魅力ある人と人の「出会いの場」**
市民活動センターサポーター 石川美恵子

共育セミナー当日、朝日新聞朝刊の「ひと」欄に掲載されていた、この4月から東京芸術大学の学長に就任される日比野克彦さんの「SDGs には芸術が必要」、「アートは不要不急ではなく、社会と切り離せない存在」との言葉に勇気をいただくとともに、今回のセミナーのテーマ「街場にアートを、音楽を」と、それにまさに呼応するようなセミナーの内容に、幸先のよさを感じ、ZOOM で参加しました。

元機械工場を再利用した多目的スペース**「ギャラリー南製作所」**を亡きお父さまのお誕生日にオープンしたかったと**話された水口恵子さん**。お父さまが情熱を注いだ仕事へのリスペクトを「ギャラリー南製作所」の名前にも込めたことから、お父様への思いが伝わってきました。建物の外観からの窓の



「ギャラリー南製作所」には、工場時代の鉄くずもそのまま残してあって、何故か暖かさを覚える



↑ 窓の位置をロゴマークにした

位置がロゴマークにデザインされているのがとても気に入っているとのことお話しは、すごく素敵だと思いました。

ギャラリーは 100 m²超の空間が魅力で、自然光、遮光、天井、梁、音響、平面、立体、と利用する人の想像力をかきたてるものとなっていることが分かりました。写真展、絵画展、立体造形展、ジャズライブ等々、魅力的な企画が続いているとのこと。緩やかな繋がりが心地よいとも。みんなが元気になって、地域が明るくなればと水口さん。本音でふれあえる企画と場づくりをしていきたいと抱負を語り、ジャズ演奏に合わせてダンスをされる、魅力的な人柄に触れたひとときでした。



望月則男さんが発表された**「アンサンブル YU」**は大学の同級生 2 人から始まり 12 人までメンバーが広がったマンドリンとギターのアンサンブルグループ。

コロナ禍のリモートでの練習には苦労されたようでした。演奏場所が必要なので、「ウィーンホール」の小林さんに相談し



たところ、キャンセルのあった日に使わせていただいたことや、「YAMATO ART100」に参加できたこと等、人とのつながりの必要性を実感したと語った望月さん。「人のためにやる、みんなのためにやるにしても、実施するには場所が必要だ」と強調されました。

コロナ禍の現在、高齢者施設等での演奏活動はできないので、YouTube で配信しているとのこと。セミナー終了後、早速演奏を聴かせていただきました。マンドリンとギターの弦の響きが優しく、癒されました。早く、施設で生演奏を聴かせてあげてほしいと思いました。



小山伸一郎さんは障がい者・健常者を問わず、一人ひとりが絵画制作に夢中になり、心の居場所として自由に過ごすことができる、「あーとすたじお源」（横浜市）の取り組みを紹介されました。個の存在と感性を大切に、そっと見守り、そこから生まれるナチュラルアート作品を社会に発信し、社会的自立の可能性を追求している活動に心が熱くなりました。

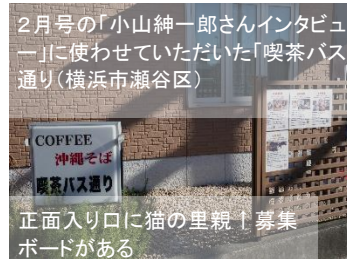
続いて、多国籍のアーティストと共に人種や国籍、ジャンルの隔たりを超えて、多言語・多文化の環境で創作活動を行っている、岐阜県可児市の多文化共生のための演劇プロジェクトを紹介されました。

知的障がい者、LGBTQ の方など7ヶ国からなる、多様な文化を持ったメンバー30 人が参加したドキュメンタリー演劇「夏

の夜の夢」の上演の様子を語り、「排除の原理ではなく、包摂することにより共生社会が実現する」と強調されました。

さらに、さまざまなハンディキャップを持った人たちが、その人の好きなこと、得意なことで活躍できるようサポートしている施設「studio COOCA」（平塚市）や、茅ヶ崎のコワーキングスペース「C の辺り」での活動「本とアートと文学と」を紹介。また、瀬谷区の「喫茶バス通り」でのライブ活動やひきこもり家族の居場所づくりなど、地域の居場所づくりを紹介されました。

商店街の空き店舗の活用のヒントも述べられ、今後の地域づくりにつなげられればいいなと思いました。



共育セミナーを終えて（雑感）

今回のゲストスピーカーの一人、水口恵子さんとは、NPO 法人大森まちづくりカフェが主催する「まちカフェ夜学」で出会った。そこでの恵子さんご主人との連携によるトークは弾けていて、暖かいオーラが伝わってきた。お父様が残された、小さな町工場跡地を愛し、地域の居場所にしたいという想いが結実した街中のギャラリーと言える。

ところで、水口さん、ZOOM でのスピーカー役は初めての経験ということで、大変緊張されていた。申し訳ないお願いをさせてしまったのだと少し反省。

当センターの望月がご紹介した、ウィーンホール（大和東 1-12-4）のオーナーの小林三夫さん。本当はスピーカーに加わっていただきたく、お願いしたのですが、固辞された。それでも、ご紹介したかったのは、市内に民設民営のホールがあり、多くの音楽活動をしている、あるいは音楽ファンの方々の要望に答えていることである。

また、セミナーを開催したおかげで、互いに面識のなかった水口恵子さんと小山紳一郎さんをつなぐこともできた。

大和市に「シリウス」がオープンして5年を経過したが、街場のアート活動が活性化することも大事なこと。

これからも中間支援の役割を模索していく。（船越）

2月17日（木）はれ 「センター」のある日ある時

「やまと国際オペラ協会(YIOA)」、「やまと国際フレンドクラブ(IFC)」の各会長である長谷部ご夫妻が寄って情報交換。「複数団体が一体となって舞台芸術フェスティバルの大きな花を大和市に咲かせたい」との構想を実現化したいと力強く語る。それに比べ、中間支援組織として何も出来ない...

それどころかバテルギウス館内では「音は出せません」と参加団体を規制している現状。ふと思ったのは「今の文化祭」は昔からの掲示主体の「公民館まつり」の域を出ていない。何ら「総合市民まつり」の体をなしていない。

新型コロナ蔓延の環境下、毎月の ZOOM 会議を関係者とやっているの、その話題の一つに「地元」の「文化祭」を入れてもらった。

まだこれからも続くが、早速の1回目「地元大学と交響楽団の参加」

が前橋・高崎から報告された。最初から圧倒されそうな内容だった。（望月）

